



の が き 野垣あきこ

子ども・暮らし・平和



2024年11月20日 No.202 連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ!

下井草まちづくりラボ

区民と鉄道連続立体交差事業と駅周辺の事例視察へ

【石神井公園駅付近「高架橋及び側道」】



10月26日、杉並区は第5回目の「下井草まちづくりラボ」を開催し、鉄道連続立体交差事業化後の他路線の視察を行いました。

鉄道高架と地下化の事例を実際に見て理解を進める

区は、鉄道連続立体交差化における駅前広場やロータリー等の駅周辺の状況や西武新宿線が高架化・地下化した際のまちの将来像をイメージするため、視察を行いました。

当日は朝8時半に井草地域区民センターに集合し、大人10名、子ども1名と区職員、ファシリテーター1名がバスで視察に出発しました。

高架化の事例／西武池袋線

西武池袋線の練馬高野台〜大

泉学園駅間は平成28年に高架化され9つの踏切が解消、3本の都市計画道路が交差しました。

高架下の土地活用では、駐車場や駐輪場、スーパー、保育施設等に限られ、利用されない土地も多くなりました。

地下化の事例／小田急線

小田急線の代田橋〜東北沢駅間は複々線を上下2段に地下化したことで、買収や立ち退きがほとんどなかったそうです。雨庭広

場や個性的な商業施設など、十分に検討されたと思われる跡地活用の状況も確認できました。

都、世田谷区、地元住民と鉄道事業者がしっかりと連携できた事例として、西武新宿線の野方〜井荻間の連続立体交差化の参考にできる可能性があります。

【雨庭とは？】

雨水を下水道に直接放流せず、一時的に貯留してゆっくりと地中に浸透させる機能を持った植栽空間

【下北沢駅「駅前広場」(整備中)】



参加者からは、「下井草まちづくりや、中野区3駅のまちづくりと連続立体化にはまだ検討すべきことが残っていると思う。課題と検討事項を来年度に正しく引き継ぐために、年度内に追加のラボの開催を希望したい」との声が寄せられました。

次回、第6回まちづくりラボは11月30日(土)9時〜11時半、会場は桃五小体育館です。今年度開催する最終回ですが、初めての方でも傍聴が可能です。

※この記事は視察に参加された方から寄せられたレポートと杉並区の資料などを基に書いています。※写真は杉並区公式サイトより

杉並区は物価高騰・生活苦の区民生活に最大限の対策を！

11日、党区議団は「深刻な物価高騰や税・各種保険料負担による生活苦への緊急対策を求める要望書」を区長に手渡ししました。
8割以上が「生活が苦しい」アンケートに切実な声



現在、党区議団は区民アンケートを実施しています。1月8日時点で集計した641通の回答のうち「昨年と比べ暮らしは苦しくなった」が50%、「苦しい状況が続いている」が33%と、合わせて83%の人が苦しいと答えるなど、深刻な実態が浮き彫りとなっています。
生鮮食品、米、電気代など、生活に不可欠な品目の高騰によって、食費を削り、電気代も節約するなど、憲法が保障した「健康で文化的な生活」が脅かされる状況となっています。
懇談のなかで党区議団は、アンケートに寄せられた声を紹介し、生活苦に直面している大多数の区民に「最大限の対策」を講じるよう求めました。

要望した項目の一部(要旨)

- 政府に、地方公共団体への臨時交付金の交付、国民への給付金支給、光熱費の引き下げなど対策を求めること
- 低所得世帯への米の支給や米券の発行
- 国民健康保険料の負担軽減
- 低所得者等への家賃助成の早期実施
- 就学援助の拡充、修学旅行費補助の復活、通学交通費補助など教育費の負担軽減
- 出産費用の区独自の上乗せ助成、妊婦検診費用助成の拡充
- 年末年始の相談体制の強化

区長は、今年度の創設を表明している家賃補助について、「できるだけ早期に示せるよう全力をあげて取り組んでいる」と答えました。
アンケートへのご協力をよろしく願います。▼



弁護士による法律相談

毎週 水・金曜 2～4時半

会場 日本共産党杉並地区委員会

高円寺南3-30-12

電話 03-3314-5551

※予約は必要ありません。
当日現地で先着順です。



アンケートに寄せられた声

- わずかな貯金が毎月少なくなっている、何年か先は家賃が払えずホームレスになる不安
- 水道代節約のためにお風呂をシャワーのみにする
- 給料が変わらないのに物価や家の価格が高くなりすぎて子どもを産むことが現実的でない
- 国保料が殺すつもりかかってくらい高額
- 食べ盛りの子どものように外食させてあげられない

あきりの部屋

とも可能な反面、情報の信憑性と判断は個人に任せられます。
ネットだけに頼る選挙は、現実離れしたゲーム感覚や一時的なマイナス感情を利用したものが多く、自分たちの住むまちや暮らしを良くすることは無縁な方向に陥ってしまうことも。
危険な扇動に騙されず、デジタルリテラシーを培うためには「自分で考える」ことの日常化が大事。考える「自由な時間」や確かな目を持ちたいものです。

都知事選、総選挙、兵庫県知事選の結果を受け、デジタルリテラシー(デジタル技術や情報を理解し、活用する能力)が問われる時代だと感じます。これは日本だけではなく、米大統領選でも同じことが言えますし、全世界において共通するものです。
インターネットのSNSや動画サイトはテレビや新聞と違い、個人でも発信できるメディアです。体制に騙されない民主的なムードや文化を作り出すこ